

スポーツ庁 UNIVAS委託事業

令和5年度

「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」

スポーツ医学に基づいた指導者・トレーニング方法の普及

国立大学法人 群馬大学



目次

- ・ 事業趣旨
- ・ 地域の課題

- ・ 実績
 - 指導者トレーニング講演会の開催
 - 新聞広告を用いて各種情報の発信
 - 部活動支援事業
 - HPSアプリを用いた学生のサポート
 - 有識者会議の開催

事業趣旨

現在、全国的に進められている学校部活動の地域移行について、群馬県の地域の現状に合わせたサポートの方法について、模索することや人的資源を有効に活用し、部活動の地域移行のサポートをすすめていくことを目的に、大学の持つスポーツに関する正しい知識を広く発信すること、指導者を始めとした部活動指導者の育成も同時に進めたい。また、群馬県と共同開発中のハイパスフォーメンシステムアプリ（以下HPS）を地域（地域スポーツクラブ）に提供すること、スポーツに関わる生徒のサポートも含めて、地域のスポーツ振興に貢献する。

地域の課題

地域部活動の指導者不足

群馬県では地域スポーツクラブや学校部活動の受け皿が不足している。特に指導者数と指導者の教育制度（質）が不足しており、スポーツ医科学等を生かしたエビデンスに基づいた指導スキルを身に着ける必要がある。

生徒自身が主体的に活動する

活動・トレーニングが受け身になりがちで、指導者からの一方的な練習メニューの提示・単調作業になりがちである。コロナ禍において、大会等が中止になったことで成功体験の機会が減っている。

これらの課題に対して

講演会などを通じて、スポーツ指導者に必要な知識や、現在のスポーツを取り巻く環境について、各専門家の協力を得て地域に還元することで、地域指導者の質を向上させる。また、大学の持つスポーツに関するリソースである学生資源を地域に還元していけるよう、新たな指導者育成を進めることで、指導者の確保を目指す。また、群馬県・群馬大学が構築するハイパフォーマンスシステムアプリを地域に提供し、部活動・地域移行をサポートする。また、モデル都市で運用し、アンケート・体組成で評価する。

実績

- **講演会の開催**

9月1日 第1回 スポーツ医科学に基づいた指導者講演会
11月14日 第2回 スポーツ医科学に基づいた指導者講演会
1月10日 第3回 スポーツ医科学に基づいた指導者講演会

- **地域の部活動指導**

群馬大学荒牧キャンパス他、地域の中学生へのスポーツ指導

- **体組成測定及びHPSアプリを用いた部活動支援**

吉岡町及びみなかみ町で体組成測定を行うとともに、その変化をグラフ化することで自らの身体的な変化を可視化することが可能とし、生徒の主体的な活動支援及び指導者の指導補助に貢献。

第1回講演会

スポーツ医科学に基づいた

指導者トレーニング 講演会・有識者会議

参加無料

群馬大学スポーツ医学プロジェクトの一環として、専門知識と資源を地域の指導者に還元することを目的としたセミナーイベントです。

オンライン同時開催!
現地・オンライン参加いずれの場合も参加申込みが必要です。 [参加申込はこちら!](#)

9/1 FRI **10:30** から **20** 名

時間 **10:30** から **11:00** **11:00** から **12:00** **12:00** から **12:30**

会場 **官民共創スペース NETSUGEN** 定員 **20**名 ※先着順
所在地:群馬県庁内 前橋市大手町1-1-1

講演会
大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業について

大学が持つスポーツ資源をいかに地域貢献に生かしていくのか、本プロジェクトの趣旨や活動について紹介します。

講師 中雄 勇人氏
群馬大学共同教育学部保健体育講師・准教授。運動学を専門とする。本プロジェクトの研究総括を担当。



講演会
ジュニアスポーツの今後の在り方について
一学校部活動改革派とは—

部活動改革がなぜ必要なのかを解説するとともに、現在の取り組みについて実例をもとに紹介します。

講師 小出 利一氏
NPO法人新町スポーツクラブ理事長。その他、スポーツ庁の地域スポーツクラブ活動アドバイザー等を兼任するなど多方面で活動する。



講演会
スポーツ医科学プロジェクトについて

アスリートをサポートするため、医学的サポート・デジタル技術の活用をするプロジェクトを紹介します。

講師 中村 賢治氏
群馬大学数理データ科学教育センター・講師、先端医療開発センター一兼任。生体医工学、知能情報学を専門とする。

大山 善昭氏
群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター長

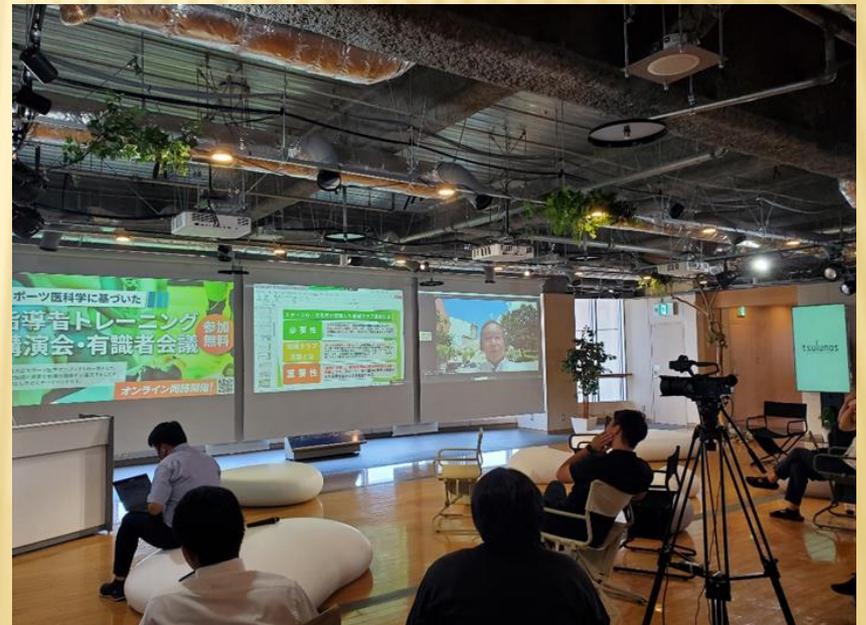
田井 健太郎氏
群馬大学共同教育学部保健体育講師

町田 大輔氏
群馬大学共同教育学部専攻教育講師



スポーツ医科学に基づいた指導者・トレーニング方法の普及事業 主催:群馬大学 後援:群馬県
本事業はスポーツ庁及びUNIVASの委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです。

群馬県庁において、講師として小出利一氏をお招きし、ジュニアスポーツの今後のあり方について、講演いただいた。



第2回講演会

スポーツ医科学に基づいた
指導者トレーニング
講演会・有識者会議 **参加無料**

群馬大学スポーツ医学プロジェクトの一環として、専門知識と資源を地域の指導者に還元することを目的としたセミナーイベントです。

11/14 TUE **18:00** から **100名** 定員
時間 ※先着順

オンライン同時開催!
現地・オンライン参加いずれの場合も参加申込みが必要です。 [参加申込はこちら!](#)



会場 吉岡町文化センター 研修室 所在地:群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田472番地

18:00 ▶ 19:00 講演会 スポーツ活動をするジュニア選手の食事の在り方 スポーツ活動を続けるために、求められる食の在り方と、具体的な食事の揃え方、摂り方などを紹介します。 講師 木村 典代氏 高崎健康福祉大学教授、日本スポーツ栄養学会理事を務める。特にジュニアアスリートの食行動実態を研究テーマとしている。	19:00 ▶ 20:00 講演会 選手・指導者のためのコンディショニングの実際 アスレティックトレーナーの役割を解説し、選手・指導者のためのコンディショニングの実際を紹介します。 講師 武井 健児氏 ぐんまスポーツ整形外科・General Manager、日本理学療法士協会スポーツ認定理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー。医療機関だけでなく、様々な種目のスポーツ現場でトレーナーとして活動している。
--	---

スポーツ医科学に基づいた指導者・トレーニング方法の普及事業 主催:群馬大学 後援:群馬県 / 吉岡町教育委員会
本事業はスポーツ庁及びUNIVASの委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです。

吉岡町文化センターにて、スポーツ栄養及びコンディショニングについて、木村典代氏と武井健児氏に講演を頂いた。



第3回講演会

スポーツ医学に基づいた

指導者トレーニング 講演会・有識者会議

参加
無料

群馬大学スポーツ医学プロジェクトの一環として、専門知識と資源を地域の指導者に還元することを目的としたセミナーイベントです。

オンライン同時開催!

現地・オンライン参加いずれの場合も参加申込みが必要です。 [参加申込はこちら!](#)

15:00 ▶▶ 15:45

講演会

**私たちが考える
部活動改革について**

吉岡町における陸上部の活動について事例紹介および活動した所感、他の地域の展望と、マルチスポーツ、企業参加について紹介します。
また、CodeProjectの活動・展望等について現状の企業パートナーの活動内容の紹介や今後の方向性を加味しての展望について紹介します。

講師 一般社団法人
CORD PROJECT 代表理事
池淵 智彦 氏
大学卒業後、2011年に企画デザインの会社を創業、スポーツの国際大会や大手ラグジュアリーブランドプロモーションなどを手がける中、地域におけるスポーツ教育格差に着目し2022年に(社)CORD PROJECTを設立。企業を巻き込んだ受益者負担ゼロの地域クラブを全国で11ヵ所運営し、部活動改革も複数のエリアを手がける。

株式会社ヤマダホールディングス
文化育成振興推進部 部長 兼
陸上部track&field監督
田中 宏昌 氏
大学卒業後、要業団において十種競技のアスリートとして、世界陸上に出場。現役引退後は、2017年より株式会社ヤマダホールディングスに入社し、陸上部track&fieldの監督としてアスリートの育成を行いつつ、2020年より文化育成振興推進部の部長を務め、スポーツを通じたCSR活動および部活動改革に取り組む。

1/10

時間 **15:00 ▶▶ 17:30**

定員 **20名** ※先着順

会場 官民共創スペース NETSUGEN

所在地:群馬県庁内 前橋市大手町1-1-1

15:45 ▶▶ 16:30

講演会

**3x3を通じた
地域活性化**

少人数スポーツを通して、地域を元気に。人口2万人以下の小さな街でも可能なスポーツ及び活動事例を紹介します。

講師 3人制プロバスケットボールチーム
"MINAKAMI TOWN EXE"代表
大塚 俊 氏

bJリーグ時代では、群馬クレインサンダーズ練習生。その後、埼玉ブロンコスでプロバスケットボール選手としてプレー。その後、一度は選手を引退後、就職、社会人経験を経て、地元みなかみ町にて、3x3のプロチーム設立の為に、起業。現在は、MINAKAMI TOWN EXEの代表を務めるながら、プロ3x3選手としてもプレーをしている。

16:30 ▶▶ 16:50

講演会

**吉岡町における
休日部活動の
段階的な地域移行**

講師 吉岡町教育委員会
生涯学習室
社会教育指導員
飯塚 敏雄 氏
元群馬県中学校校長。令和4年度から町教育委員会地域移行担当。

吉岡町教育委員会
生涯学習室
社会教育指導員
坂本 浩之 氏
元吉岡中学校長。令和5年度から町教育委員会地域移行担当。

スポーツ医学に基づいた指導者・トレーニング方法の普及事業 主催:群馬大学 後援:群馬県 / 吉岡町教育委員会
本事業はスポーツ庁及び UNIVAS の委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです。

群馬県庁において、講師としてCORD PROJECTの池淵氏、ヤマダホールディングスの田中氏、MINAKAMI TOWN EXEの大塚氏より、企業や地域に根ざしたスポーツ団体としての現在の活動や今後の展望について講演いただき、吉岡町教育委員会の飯塚氏・坂本氏より、部活の地域移行を行っている自治体としての状況について講演いただいた。



3回の講演会を通じて

大学の持つスポーツに関する専門知識を広めることを目的とした「スポーツ医科学に基づいた指導者講演会」を、計3回実施した。

内容としては、現在の部活動の地域移行の原状や課題、コンディショニングやスポーツ栄養に関する知識、部活動の地域移行を進めている企業や、教育委員会から、部活動の地域移行の現状や、今後の展望など、それぞれの分野の専門知識を持つ講師をお招きして講演会を実施した。

講演会の工夫として、現地において参加が難しい場合においても、講演内容を視聴できるよう、

- ①ZOOMによるオンラインでも講演回に参加可能なハイブリッドでの開催としたこと
- ②講演内容を後日でも視聴出来るよう動画の配信や、コンディショニングやスポーツ栄養に関する記事をHP上で確認できるようにするなど情報発信の方法を工夫することで、知識に触れる機会の確保を行った。

新聞広告

講演会の内容及び活動内容を広告として新聞に掲載することで、広く活動の広報活動を行った。また、講演会の内容を後日視聴できるように加工した上で、広告において視聴方法を広報することで知識の拡散に努めた。

スポーツ医科学に基づいた指導者トレーニング

講演会の動画はコチラ▶



9月1日、群馬大学スポーツ医科学プロジェクトの一環として、大学の持つ専門知識の活用について考える講演会が、群馬県庁32Fの

官民共創スペースNETSUGENで開催された。

群馬大学・共同教育学部の中雄勇人准教授は大学が持つスポーツ資源をいかに地域貢献に生かしていくか、プロジェクトの趣旨や活動について説明をした。県と群馬大が開発を進めている選手のデータ蓄積アプリも紹

介し、「選手と指導者、両者のスキルアップにつながる」と解説した。また、スポーツ庁の地域スポーツクラブ活動アドバイザーの小出利一氏も講演を行い、現在の取り組みの実例を示しつつ、部活動改革の必要性を説いた。

講演会は今後もテーマを変え、開催予定となっている。



オンラインを含め約30名が参加

第2回講演会 開催!

10月下旬から11月上旬
実施予定

テーマ

「**コンディショニングやスポーツ栄養に関して**」(予定)

ぐんまハイパフォーマンスシステムとは?

①競技団体の組織力と選手の強化 ②ジュニア世代の発掘と一貫指導 ③優秀な指導者の活用と育成 ④医学科学データの活用—を柱とし、全国や世界を舞台に活躍するトップ選手を育てていく、スポーツ医科学プロジェクトです。

- 01 アスリートのデータを蓄積・計測・分析
- 02 セルフトレーニングシステム(モーションの解析)
- 03 デジタルの活用でスキルアップを実現

実践例 ★尾瀬高校バスケットボール部にて★

医学科学データを強化の武器に
群馬県内の競技団体や部活が活用

四肢の筋肉量や体脂肪率、基礎代謝量など細かい数値を体組成計で測り、一人一人にアドバイスをした。効果が数値に表れることで励みになり、指導者も科学的な根拠に基づいた練習メニューを作成できる。



体組成計を使って筋肉量などを測る

掲載記事はこちらから▶



尾瀬高校にてオンライン栄養指導

群馬大学 共同教育学部
保健体育専攻HP▶



9月15日、「群馬大学スポーツ医科学プロジェクト」の一環として、尾瀬高校バスケットボール部でオンライン栄養指導が行われた。管理栄養士として実務経験のある群馬大学の町田大輔准教授が、運動をする際に必要な栄養素の説明や、実際の学生の食事を見ながら食事改善のアドバイスをした。



オンライン栄養指導の様子。尾瀬高校バスケットボール部の生徒5名が参加した。

スポーツをする人が食事取る際には「バランス×量」に気を付け、6つのお皿を意識することが大事と解説。6つのお皿とは〈主食・主菜・副菜・汁物・乳製品・副菜〉を食べることで、バランスの良い十分な量の食事を取れるというのだ。また、体重を量ることで最適な食事の目安が分かるため、なるべく毎日同じ時間に同じ条件で体重を量り記録を付けるのも大切と説明。

今後も「ぐんまハイパフォーマンスシステム」と連携して、部活動支援などさまざまな活動を行っていく。



ぐんまハイパフォーマンスシステムとは?

- ①競技団体の組織力と選手の強化
- ②ジュニア世代の発掘と一貫指導
- ③優秀な指導者の連携と育成
- ④医学科学データの活用—を柱とし、全国や世界を舞台に活躍するトップ選手を育てていく、群馬県の競技力向上のための取組です。

第2回講演会

2023年 **11月14日** 火

吉岡町文化センター 研修室にて開催

■群馬県北群馬郡吉岡町下野田472 TEL.0279-54-1161

テーマ「**コンディショニングやスポーツ栄養に関して**」(予定)

※詳しい内容などは、今後、群馬大学共同教育学部 保健体育専攻HPに掲載予定です。

新聞広告

スポーツ医科学に基づいた指導者トレーニング講演会



高崎健康福祉大の木村典代教授

11月14日、群馬大学スポーツ医科学プロジェクトの一環として、「スポーツ医科学に基づいた指導者トレーニング講演会」が吉岡町文化センターで開催された。地元の指導者や大学生、教員ら約30人が参加し、ジュニア選手の適切な食事や、心身状態のケアについて学んだ。

高崎健康福祉大の木村典代教授が、食事と身体づくりの関係について解説。食育の必要性にも触れ「いろいろな食体験をさせて、勝ちたいという気持ちに関連付けさせることが大事」と話した。

また、ぐんまスポーツ整形外科(前橋市)の理学療法士、武井健児さんは、トレーナの多様な役割や、本番前の状態を整える「コンディショニング」の実践例を紹介した。

講演会は今後もテーマを変え、開催予定となっている。



講演会の様子

コンディショニングに関する記事を公開中

一今後も新たな情報の発信を予定しております

※詳しくは、
群馬大学共同教育学部・保健体育講座
のHPにてご確認ください。

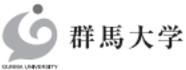


群馬大学スポーツ医科学プロジェクトとは?

群馬大学の持つスポーツ医科学に関する様々なリソースを活かして、群馬県のスポーツの活性化に貢献することを目的に

- ① スポーツに関わる専門的な知識を地域に還元することで、地域のスポーツ振興に貢献する
- ② 官民学の連携を通じて群馬県のスポーツ振興に貢献する

…など、様々な活動を行っております。



群馬大学

お問い合わせ先

共同教育学部 保健体育講座 TEL.027-220-7322

●本事業はスポーツ庁及び一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)の委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです

大学スポーツに取り組む学生たちによる部活動支援の実例

スポーツ庁及びUNIVASの委託事業である「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」の一環として、群馬大学では学校部活動支援を実施しています。



その1つである柔道指導には、群馬大学柔道部の学生らが携わっています。

熱心に指導する柔道部員

群馬大学柔道部は、推薦などで集まった者が全くいないながら、令和3年度に39年ぶりとなる全日本学生大会出場を果たすなど、近年成果を上げています。そのような学生らだからこそ有する普段の稽古に対する工夫が学校部活動支援での指導に活かされているようで、参加した中学生から好評を得ています。合同稽古、歓迎しております!

群馬県内で学校部活動指導にお困りの方がいらっしゃいましたら、「群馬大学柔道部 Xアカウント」へお気軽にご連絡ください。

【稽古日時】
毎週木曜日 18~20時
毎週土曜日 10~12時
【稽古場所】
群馬大学 荒牧キャンパス武道場

▼群馬大学柔道部 Xアカウント▼



群馬大学スポーツ医科学プロジェクトとは?

群馬大学の持つスポーツ医科学に関する様々なリソースを活かして、群馬県のスポーツの活性化に貢献することを目的に

- ① スポーツに関わる専門的な知識を地域に還元することで、地域のスポーツ振興に貢献する
- ② 官民学の連携を通じて群馬県のスポーツ振興に貢献する

…など、様々な活動を行っております。

第3回講演会

2024年1月10日(水)

群馬県庁32F
官民共創スペース「NETSUGEN」にて開催予定



群馬大学

お問い合わせ先

共同教育学部 保健体育講座 TEL.027-220-7322

●本事業はスポーツ庁及び一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)の委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです

第3回掲載記事 (12月12日掲載)

第4回掲載記事 (12月26日掲載)



スポーツ医科学に基づいた 指導者トレーニング講演会

中学生部活動の地域移行に焦点を当てたセミナー(群馬大主催)が10日、県庁32階の官民共創スペース「NETSUGEN」で開かれた。専門知識を持つ講師



講師の「CORD PROJECT」代表 池淵智彦氏

5人が講演し、参加者が地域移行の在り方や利点、課題を考えた。

子どもたちのスポーツ教育支援に取り組む「CORD PROJECT」(東京都)の代表理事、池淵智彦さんが登壇。家庭状況や地域ごとの

文化の違いなど、子どもたちにスポーツ格差をもたらす要因に言及した。

池淵さんは倫理観を持った実業団選手を講師として派遣する活動を紹介。教育においてさまざまなスポーツを体験させる意義を強調しつつ、「この競技を極めたいという子には、地域クラブと連携して加入を促していきたい」と述べた。

みなかみ町を拠点に活動する3人制バスケットボールのプロチーム「MINAKAM TOWN. EXE(ミナカミ・タウン・ドット・エグゼ)」の大塚俊選手らも講演し、スポーツを通じた地域活性化などに触れた。



部活動指導者などが参加、オンラインでも同時開催された。

群馬大学スポーツ医科学プロジェクトとは?

群馬大学の持つスポーツ医科学に関する様々なリソースを活かして、群馬県のスポーツの活性化に貢献することを目的に

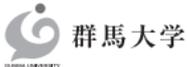
- ①スポーツに関わる専門的な知識を地域に還元することで、地域のスポーツ振興に貢献する
- ②官民学の連携を通じて群馬県のスポーツ振興に貢献する

…など、様々な活動を行っております。

コンディショニングに関する記事を公開中

一今後も新たな情報の発信を予定しております

※詳しくは、
群馬大学共同教育学部・保健体育講座
のHPにてご確認ください。



お問い合わせ先

共同教育学部 保健体育講座 TEL.027-220-7322

●本事業は スポーツ庁 及び 一般社団法人大学スポーツ協会(UNIAS)の委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです



群馬大学スポーツ医科学プロジェクト

群馬大学スポーツ医科学プロジェクトとは?

群馬大学の持つスポーツ医科学に関する様々なリソースを活かして、群馬県のスポーツの活性化に貢献することを目的に

- ①スポーツに関わる専門的な知識を地域に還元することで、地域のスポーツ振興に貢献する
- ②官民学の連携を通じて群馬県のスポーツ振興に貢献する

など、さまざまな活動を行っております。

*講演会のアーカイブや資料など、これまでの活動は以下のリンクよりご覧いただけます。

群馬大学共同教育学部・保健体育講座のHPにて

「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」の記事を公開中!



講演会の開催

群馬大学スポーツ医科学プロジェクトの一環として全3回の講演会が行われた。

群馬大・高崎健康福祉大教授、実業団監督やプロ選手などさまざまな有識者が講師となり、実際の取り組みや今後の課題について述べた。



「CORD PROJECT」代表 池淵智彦氏



高崎健康福祉大 木村 典子教授

部活動支援の実例

群馬大柔道部は、中学生の部活動指導に携わっている。参加した中学生からも好評を得ており、各種スポーツの競技力向上へつなげている。



また、群馬県と群馬大の共同開発アプリをはじめとした、選手の競技力向上へさまざまな取り組みを実施している。



お問い合わせ先

共同教育学部 保健体育講座 TEL.027-220-7322

●本事業は スポーツ庁 及び 一般社団法人大学スポーツ協会(UNIAS)の委託事業である「令和5年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです

新聞広告欄の活用

講演会の実施や、大学のリソースを活用した様々な事業について、多くの人々に知って頂く機会として、新聞広告欄を活用し、計6回の高校掲載を行った。広告には、講演会の内容だけでなく、後日内容を確認できるよう講演会の内容の動画視聴のURLをつけるなど、本事業の内容を広く周知できるように工夫を行った。

6回の掲載の際の工夫として、講演会の内容の告知、講演会が終了した場合は、その内容を後日確認できるように、動画や資料の紹介部分を含めるなど、多くの方に、スポーツに関する専門的な知識を知って頂く機会を設けるようにした。

講演会においては、それぞれの講演会においてハイブリッドでの参加者を含め25～35名程度の参加者であったが、後日、講演会の内容についての動画の視聴ができるよう新聞広告を始め宣伝したことで、視聴回数は9月の1回目の講演会においては100回を超える視聴回数となっている。また、2回目の講演会の内容について新聞の広告を見た競技団体などから、指導者講習会の相談があるなど、スポーツに関する専門知識に触れる機会を増やした成果が現れたと考えられる。

部活動支援の様子



大学施設を始め、みなかみ町など現場において、部活動支援を行った。その際、学生を指導補助として、スポーツの指導方法や安全管理、子供との触れ合いを通じて、指導者としての基礎的知識と興味関心を持ってもらうことで、将来のスポーツ指導者の育成につなげる



部活動支援について

大学の持つスポーツ資源である、大学施設や人的資源である学生の利活用の方法として、地域の部活動支援を行った。大学の施設を利用した部活動支援や、地域の現場に赴いての部活動の支援を行うことで、大学のスポーツ資源の利活用についての可能性を模索するとともに、学生を参加させることで、スポーツ現場での指導方法の学習や、安全管理の方法、現場での活動実態を知ること、将来のスポーツ指導者として必要な知識や技術を身につける機会を設け、卒業後、地域のスポーツ指導者として活躍できる人材の育成を目指した。

本事業期間においては、大学施設を中心に柔道で20回、みなかみ町のスポーツクラブにおいて陸上で5回の支援活動を実施した。

部活動支援について

地域の現状と課題

指導者の高齢化や人材不足

地域による課題の差が大きい

部活の地域移行についても、学校、教育委員会、生徒（保護者）、地域のスポーツクラブ等との連携についても地域差が大きい

大学のスポーツ資源を活用して

部活動支援に参加することで学生の学びにつながるとともに、地域貢献にもつながる

地域の指導者不足の解消の一助となる可能性がある

課題

大学の活動の一環として行う場合の、学生の管理や保険などの保証をどう継続するか

支援を必要とする現場と大学との距離が離れているなど、支援の難しさ

群馬県のハイパフォーマンスアプリ（群馬県のHPS）の活用について

部活動支援の一環として指導者および生徒自身が、自分の課題に合った正しい知識を獲得できる機会を提供するツールとして群馬県のHPSを用いたサポートシステムを提供することで、自身の体組成の変化を視覚的に把握することが可能となり、生徒の部活動を行う上でのモチベーションにもつながることを期待した。また、得られたデータを元に、さらなる群馬県のHPSの改修を生徒のトレーニング目標の設定補助など、部活動の地域移行の課題となる指導者育成及び、正しい知識を提供できる体制づくりを進めていく。

今回は、吉岡町及びみなかみ町において、実験的に月1回の計測を行った。体組成の測定とともに、各測定数値の意味などの説明を行うことで、トレーニング効果を視覚的に把握できるようにした。

群馬県のハイパフォーマンスアプリ（群馬県のHPS）の活用について

群馬県のHPSを利用することで

生徒が客観的にトレーニング効果を知ることが出来る

測定データが蓄積されることで、変化を視覚化してみることが出来る

指導者も生徒の変化を客観的に把握することが出来るようになる

今後の課題

測定機器の確保

指導者については、測定データを活用するための専門知識の必要性

現場において必要とされる項目の追加

特に、本事業の柱であるスポーツ医科学に基づいた知識を指導者に伝えることで、群馬県のHPSのデータを有効に活用することが可能となり、トレーニング効果の高い指導や安全管理が出来るものとする

有識者会議について

9月1日

参加者：羽鳥大輔 高橋大悟 武井健児 島 孟留 中雄勇人 町田大輔
中村賢治 群馬県スポーツ振興課 群馬県前橋市スポーツ局
群馬県高崎市教育委員会

議題

9月1日の講演会について
今後の講演会の内容と時期について
今後の事業方針の確認について

今回のスポーツ庁委託事業の採択を受けて、改めて本事業の趣旨と今後の方針について確認を行った。

特に、講演会においては、スポーツ指導者だけでなくスポーツに関わる生徒も理解できるような内容で演者に講演内容を検討してもらうこととなった。

有識者会議について

1月26日

参加者：小出利一 羽鳥大輔 高橋大悟 池淵智彦 田中宏昌 大塚俊
木村典代 武井健児 中雄勇人 町田大輔 中村賢治

議題

最終報告書について
今後の課題について

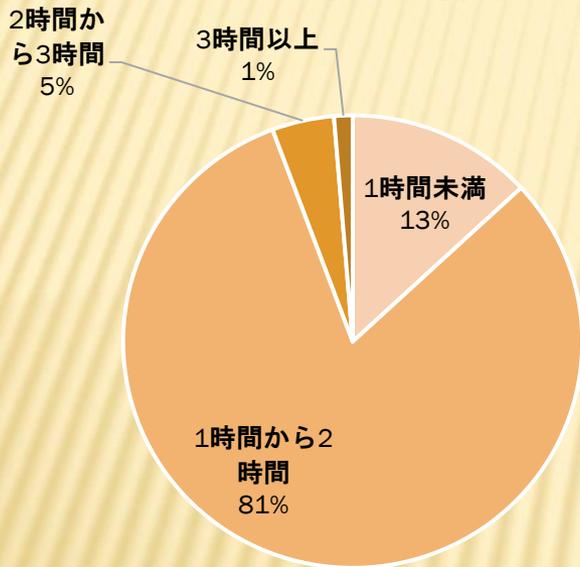
今回の事業について、最終報告書を元に有識者の皆様に確認いただき、意見交換を行った。
また、今回の事業を通じて、現在の部活動の地域移行の抱えている課題や今後の展望などについて意見交換を行った

アンケート調査結果

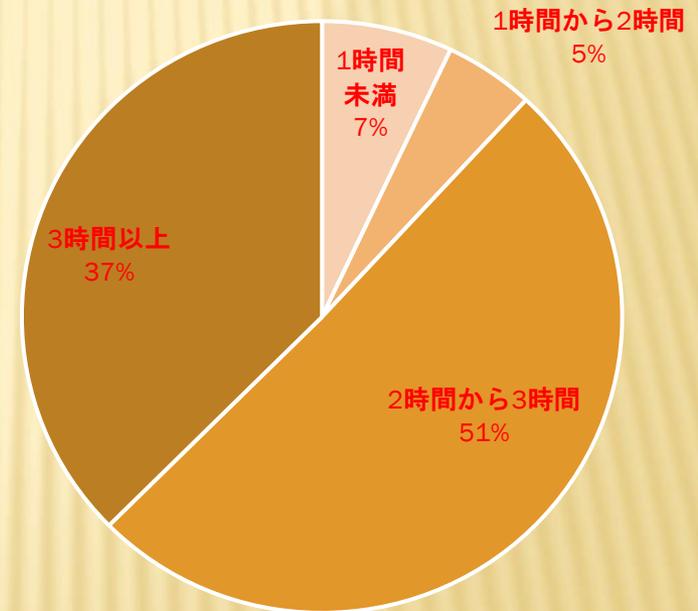
本事業期間において、中学生及びその保護者に対して部活動の地域移行に関するアンケート調査を実施した。

生徒のアンケート結果より

平日の部活動時間

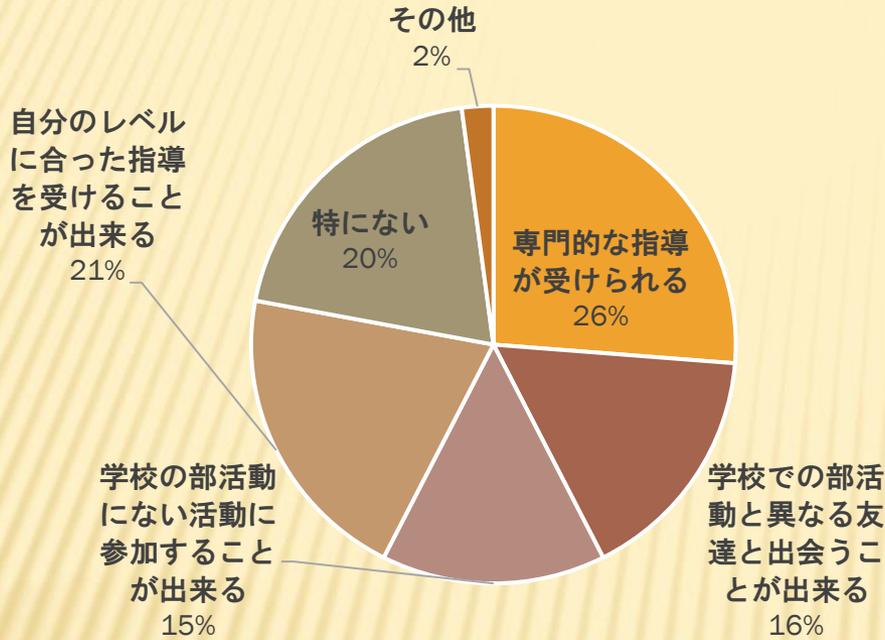


休日の部活動時間

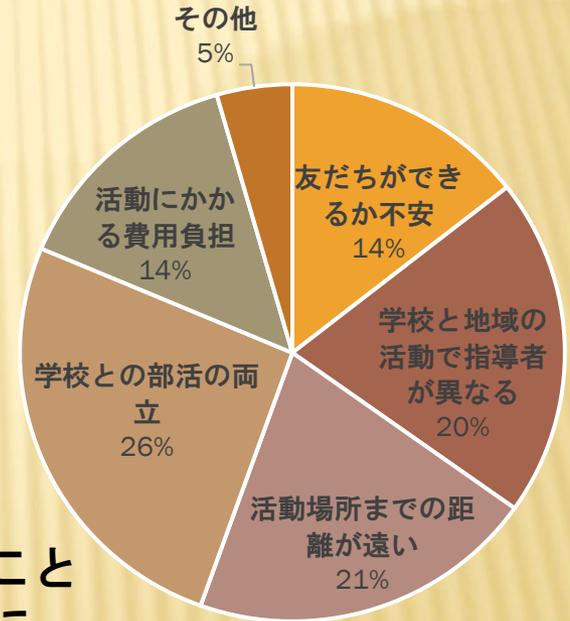


平日と休日の部活動の時間を比較すると、休日の活動時間が長いことが確認できることから、部活動の地域移行を考えるにあたり、休日の活動内容が部活動を行う子どもたちへ与える影響は非常に大きくなると考えられることから、子どもたちが安定した活動環境を得られるよう、しっかりとした環境整備が必要であると考えられる。

部活動の地域移行に期待していること

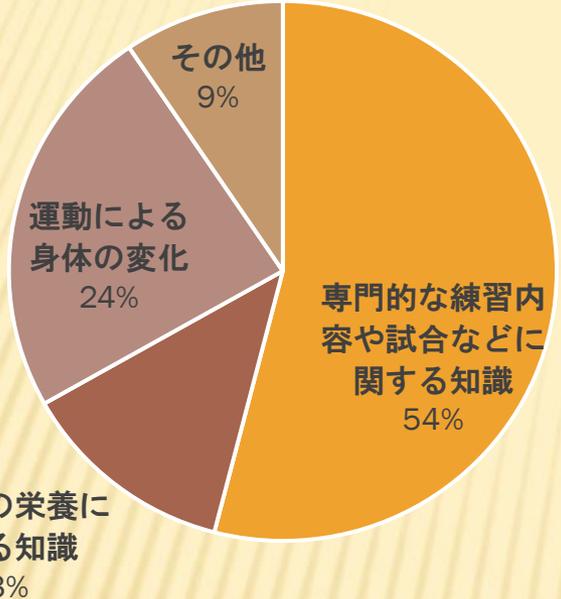


部活動の地域移行に不安に思うこと

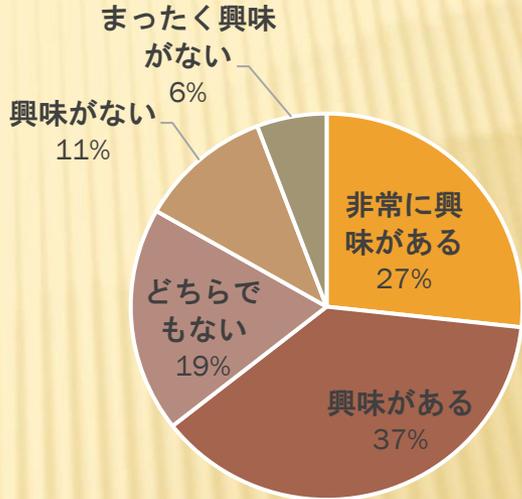


部活の地域移行について、専門的な指導が受けられることや、異なる学校の友人を作ることができるなど、自分に合った専門的な指導や出会いを求める一方、異なる環境での活動に対して対人関係の不安を持つ子どもなど、外向的な子どもと内向的な子供に対する対応や、移動距離など人口密度の低い地方での問題や費用負担を不安視するなど、様々な課題がうかがえた。子どもや家庭環境も考慮しながら、検討を進めていく必要性を改めて感じる結果となった。

部活動を続けていく上で知りたいこと



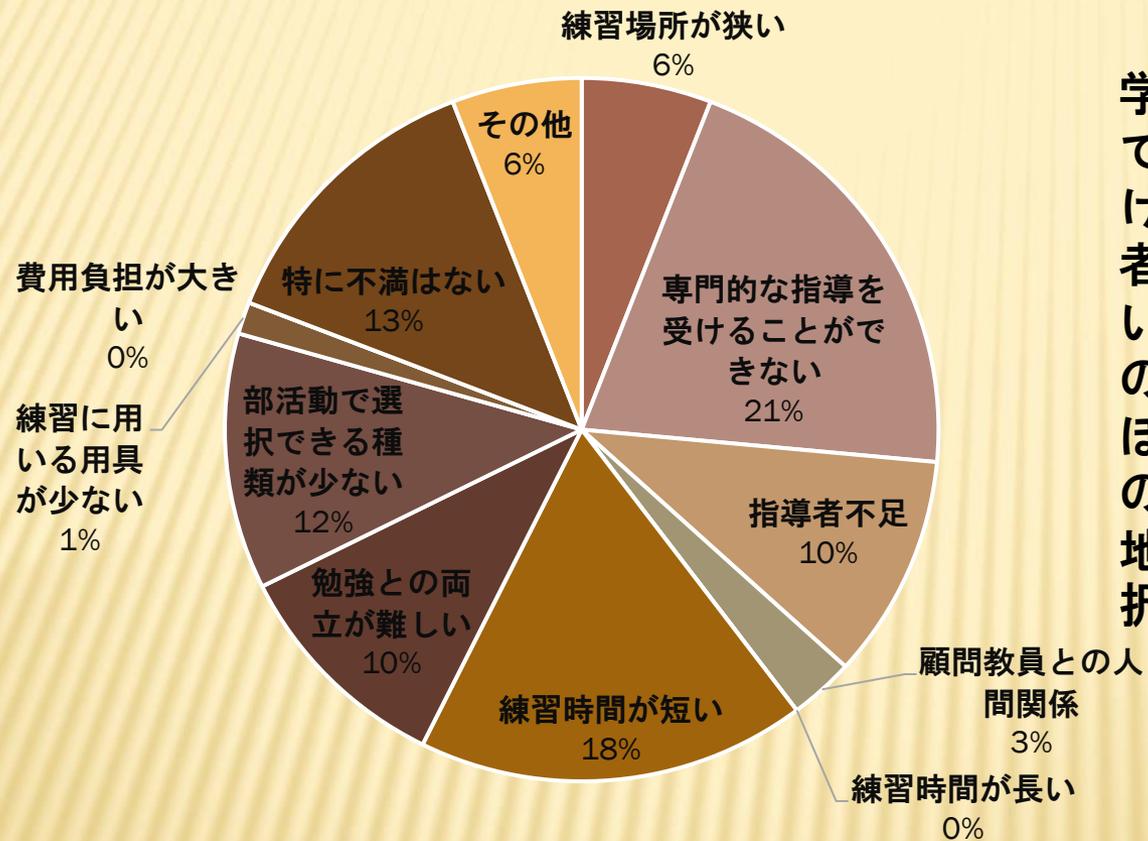
日頃の練習の効果について、確認したいと思いませんか？



運動系の部活動に所属する生徒が、部活動を続けていく上で知りたいこととしては、半数の子どもが専門的な練習内容や試合に関する知識と回答しており、自分の行っている種目に興味を持っている反面、パフォーマンスを高めるために必要な食事や体の変化について興味を持つ子どもはまだ少なく、本事業で目指してきた専門的な知識を伝える手段や自らの体に興味を持つように伝えていけることの必要性が認められた。また、練習の効果について興味のある子ども6割を超えるものの、残り4割弱の子どもは効果を確認することに対して関心が持っていないなど、受け身がちな面も見受けられることから、自らの身体の変化に興味を持ち積極的に運動に取り組むことができるようになる下地を作ることが必要であると実感する結果であった。

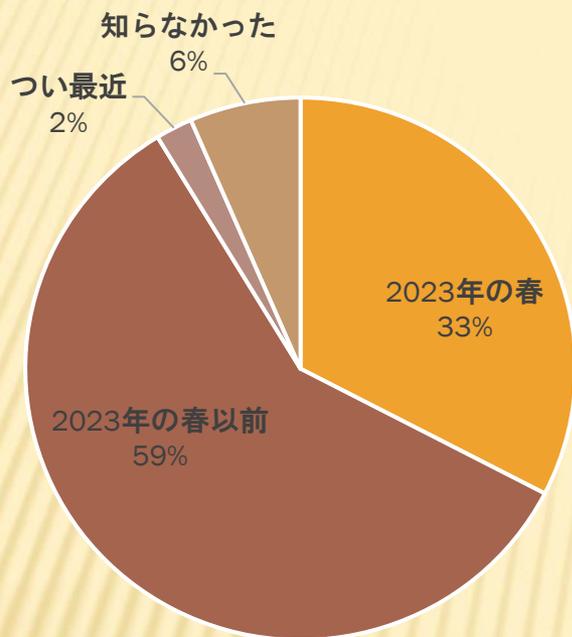
保護者へのアンケート結果より

学校における部活動の課題と感ずることはなんですか？

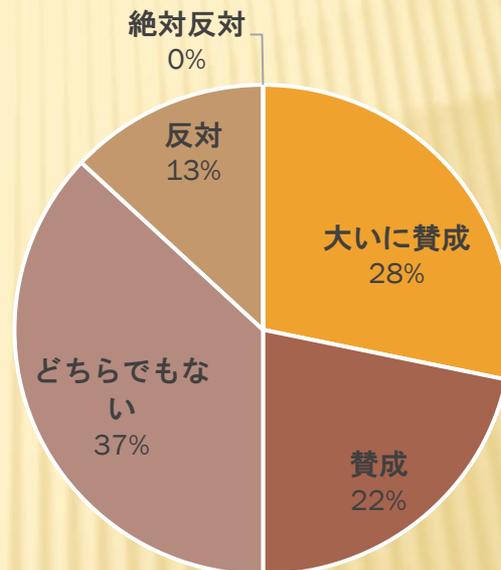


学校における部活動の課題として、保護者は専門的な指導を受けることができないなど、指導者不足を3割の保護者が感じている。また、選択できる部活動の種類が少ないとの回答が1割ほどみられることなど、子どもの種目選択の幅を広げる意味で、地域の部活動移行による種目選択の幅が広がると考えられる。

部活動の地域移行を知った時期

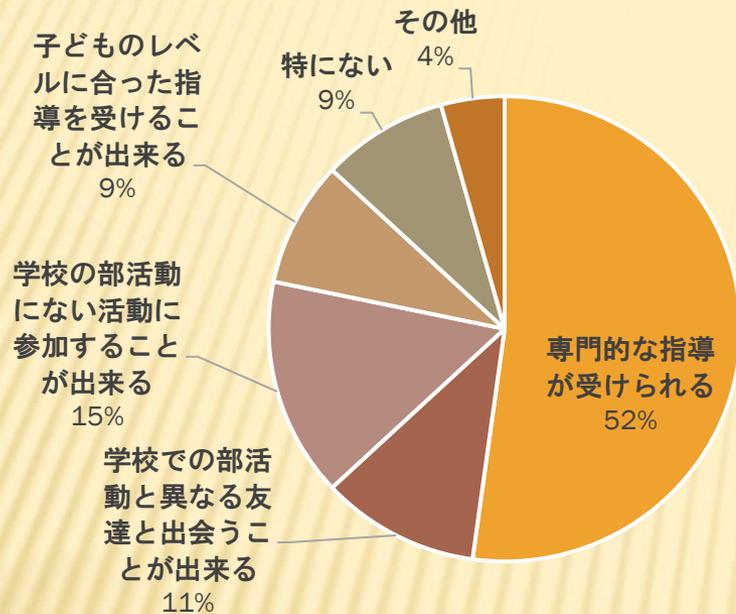


部活動の地域移行について、どう思いますか？

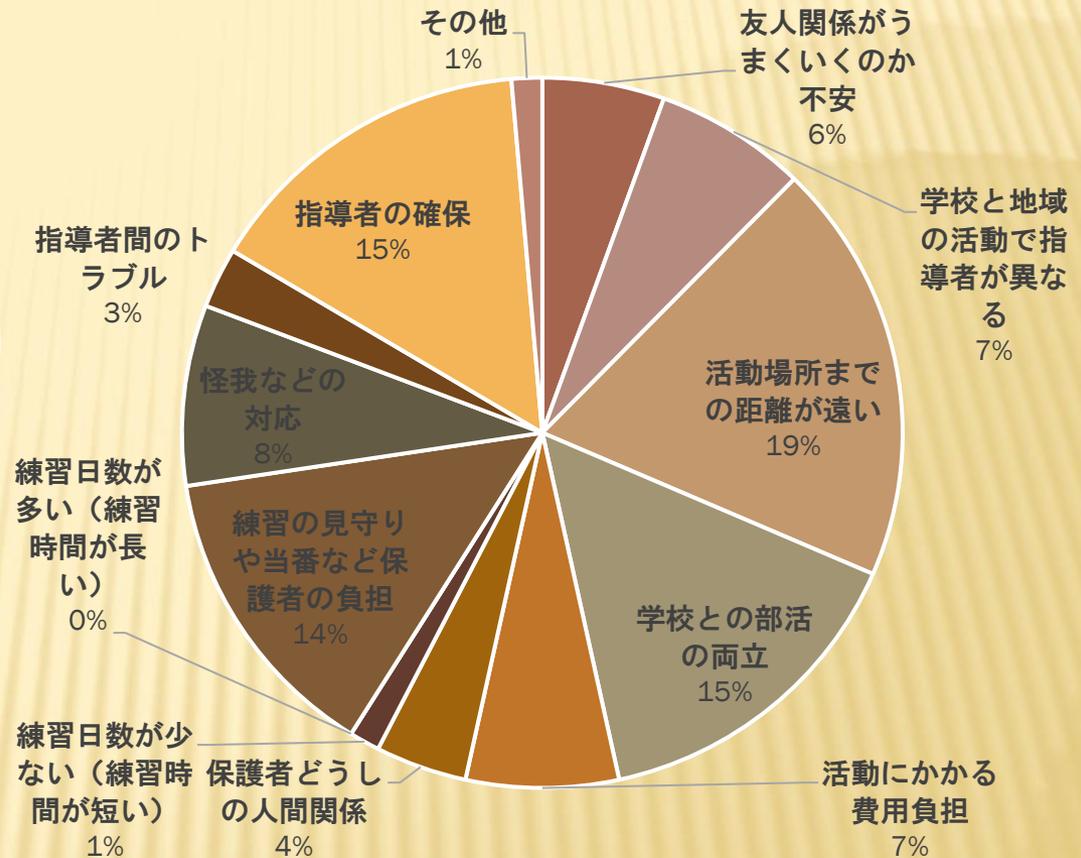


部活動の地域移行について、本年度に入ってから知ったと答えた保護者が、3割いることにくわえ、知らなかったと回答している保護者もいることから、保護者の認知度を高めていく必要がある。また、地域移行について半数は賛成と答えているが、どちらでもない・反対と回答している保護者においては、現状と比較してどう変化していくのかが見えてこない等という回答が認められたことから、情報発信の方法を検討する必要があると認められた。

部活動の地域移行に期待していること



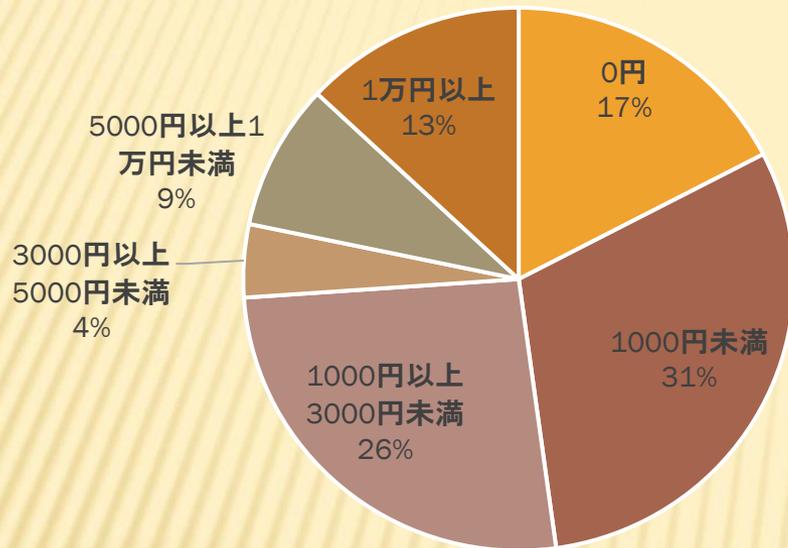
部活動の地域移行に不安に思うこと



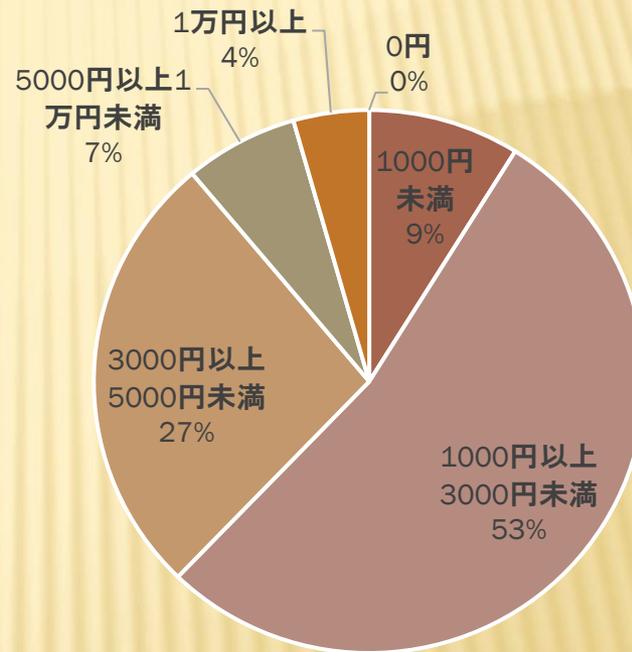
保護者も生徒と同様、部活動の地域移行においては、専門的な指導を求めていることが認められた。

不安に感じてる部分においては、移動距離や当番などの保護者負担の増加、学校の部活との両立や指導者の確保など、地域の部活移行を進めていく際の課題が見える結果となった。

学校または地域の部活動における 月ごとの費用



部活動の地域移行にともなう費用負担は どの程度が妥当と考えますか？ (休日の部活動のみ地域移行した場合)



部活動にかかる費用について、現状では7割程度が3000円未満と回答した。また、地域移行にともなう費用負担の増加に対しては、同様に3000円未満が6割を占めるなど、地域移行にともなう財政的な負担については、現状の倍程度までが許容範囲であることがうかがえる結果となった。

総括

準備期間の短い中での事業となったが、講演会の内容についての理解度なども高く、また、内容の配信方法にも工夫を行ったことで、短期間ながら、スポーツに関わる多くの方に専門的な知識や、部活動の地域移行についての原状や、今後の展望などについての情報を発信することができた。

▶ 今回の事業を振り返って

・ 指導力向上のための専門知識の提供

講演会を複数回実施できたことに加え、新聞広告やホームページ等を通じて、講演内容を後日確認できるようにしたことで、専門知識に触れる多様な機会を設けることができた。講演会后に、競技団体から講演依頼の相談が来るなど、現場の専門知識を必要としている団体に対して、大学のリソースの活用方法を伝えることができたと考える。

・ 新聞広告や部活動支援を通じて

広告を見て、休日の部活動の活動として紹介したいなど地域貢献に繋がった。地域によって、部活動の地域移行の課題が多様であることが見えてきた。地域の指導者不足などの課題に対して、大学の人的リソースの活用方法の限界。地域の部活動支援のあり方について、地域に課題に合わせた支援を改めて検討する必要がある。本年度は、様々な地域において、部活動の地域移行の模索の年となり、本事業計画においても、見直しの必要が出ることとなった。

・ HPSアプリを用いた支援および学生の活動

HPSアプリを用いた支援については、利用者のニーズを聞き取りながらより良いものにアップデートしていく。学生については、積極的に現地の部活動支援及び測定補助を行っていたことから、将来の指導者育成の一助となったと考えられる。

・ 有識者会議を通じて

現在の部活動の地域移行の状況や、実際に地域移行を行っているところでの現状や課題、部活動支援を行っている団体の活動についてなど、様々な意見を元に、今後の継続的な部活動の地域移行を進めていく上での方法を模索する必要がある。